

1. 案件の概要

(1) 案件名

(和文) 国別研修ジブチ国「初等・中等理数科教員養成

(仏文) Formation pour le renforcement des capacités des enseignants de mathématiques et de sciences pour l'enseignement primaire et moyen (la République de Djibouti)

(2) 研修期間

平成 28 年 9 月 5 日～同年 9 月 23 日

(全体受け入れ期間：平成 28 年 8 月 31 日～同年 9 月 24 日)

(3) 研修員数 15 人

(4) 国立大学法人 鳴門教育大学 研修コースリーダー 香西 武

2. 研修内容

案件目標：

ジブチ国の教員養成校の教員及び、教員養成に関わる関係者の理数科の指導法の改善に必要な能力が強化される。

単元目標：

- ・ 自国の理数科の授業法についての課題が整理され、対策を立てられる。
- ・ 日本における理数科の授業改善に関する手法について理解する。
- ・ 理数科の教員の育成および能力強化に関する日本の経験（教員養成および現職研修、地方教育行政の役割など）を理解する。

3. 案件目標（アウトカム）と単元目標（アウトプット）の達成度

(1) 案件目標（アウトカム）

案件目標：

自国の理数科の授業法についての課題が整理され、対策を立てられる。

指標：

研修員が本邦研修終了時に提出する活動計画が、活動可能で教育改善に寄与するレベルに達成しているか確認される。また、研修員が帰国後、10-6 月の活動計画案に基づき所属組織や学校教育現場で研修を実施し、その活動をまとめた報告書が国家教育職業訓練省、JICA ジブチ事務所及び鳴門教育大学に提出される。

達成度：研修終了時に作成したアクションプランは研修員の勤務状況を反映した、実施可能なプランを作成した。帰国後、国家教育職業訓練省の了承を得ながら実施することとなっている。実施後は、研修報告書を提出する予定である。しかしながら、具体的な研修計画を作成しているので、実施は確実であり、報告書の提出もされることと期待している。

(2) 単元目標（アウトプット）

単元目標①：

自国の理数科の授業法についての課題が整理され、対策を立てられる。

指標：

研修員が研修前に本国で作成し、自国の教育現状分析、研修中に行ったジブチでの理数科授業分析及びその改善方法の考察が4段階評価でB（やや優れている）以上であること。

単元目標②：

日本における理数科の授業改善に関する手法について理解する。

指標：

研修員が作成したジブチ理数科授業の改善指導案、教材作成、日本の授業の分析、授業研究の手法の理解、模擬授業への取り組み、小学校現場での授業観察及び研修員による模擬授業実施後の意見等を整理し、4段階評価のB（やや優れている）以上であること。

単元目標③：

理数科の教員の育成および能力強化に関する日本の経験（教員養成および現職研修、地方教育行政の役割など）を理解する。

指標：

日本の教育行政、県教育委員会の行政施策と指導主事の役割、教育センターにおける教員研修のシステム、教員養成カリキュラムなどの講義における研修員の質疑状況、校内研修及び授業視察状況、発言や記述に対する評価が4段階評価でB(やや優れている)以上であること。